

令和7年度 第2回 教育研究所運営に関する懇話会 議事録

◆ 日 時 令和8年1月23日（金）10：00～11：30

◆ 会 場 教育研究所 第2研修室

◆ 出席者

座長	山崎 亨	(小学校校長会長)
運営委員	米持 正伸	(横須賀総合高等学校校長)
〃	三宅 豊	(中学校長会長)
〃	浦嶋 愛	(野比小学校 校長)
〃	新田 将之	(久里浜中学校 校長)
〃	鈴木 史洋	(教育指導課課長)
教育研究所職員	杉戸 美和	(教育研究所長)
〃	宮原 充宏	(教育情報担当課長)
〃	田山 雅也	(主査指導主事)
〃	伊東 誠司	(主査指導主事：研修・調査研究担当)
〃	浅見 浩	(指導主事：研修・調査研究担当)
〃	濱田 広治	(係長：管理運営係)
〃	岸上 哲大	(指導主事：ICT活用進担当)
〃	三ツ堀 幸正	(主査：ICT環境整備担当)

他 指導主事5名

◆ 傍聴者 1名

◆ 次 第 (司会：教育研究所 主査指導主事 田山、記録：会計年度職員 棚橋)

1. 議事進行上の確認事項
傍聴に関する確認

2. 開会

3. 所長・担当課長挨拶

4. 議事

(1) 令和7年度 教育研究所 事業報告

- ① 事業報告概要について・・・・・・・・・・・・・・・・杉戸教育研究所長
宮原教育情報担当課長
- ② 研修・調査研究担当事業（研修）について・・・・伊東主査指導主事
- ③ 研修・調査研究担当事業（理科）について・・・・浅見指導主事
- ④ 研修・調査研究担当事業（調査研究）・人権教育事業について
・・・・・・・・田山主査指導主事

- ⑤ 管理運営係事業について・・・・・・・・・・ 濱田係長
- ⑥ ICT 活用推進担当事業について・・・・・・・・ 岸上指導主事
- ⑦ ICT 環境整備担当事業について・・・・・・・・ 三ツ堀主査

(2) 今後に向けて

- 5. 連 絡
- 6. 閉 会

[資 料]

- 1. 教育研究所の運営に関する懇話会第2回次第
- 2. 教育研究所運営に関する懇話会の傍聴要領
- 3. 令和7年度 教育研究所 成果と課題
- 4. 教育研究所諸事業に関する意見用紙（集約）
- 5. 令和7年度 教育研究所 要覧

※ 「令和7年度 教育研究所 要覧」につきましては、第1回で配布したものを
お持ちください。

◆ 議事録

- 1. 開会（進行：主査指導主事 田山）
- 2. 教育研究所長・教育情報担当課長あいさつ
- 3. 議事進行上の確認事項（進行：山崎座長）
教育研究所運営に関する懇話会の傍聴要領
傍聴者1名
- 4. 議事：令和7年度教育研究所事業報告についての説明及び質疑
 - (1) 令和7年度教育研究所の基本方針・重点 杉戸・宮原
 - (2) 研修・調査研究担当事業について 伊東・浅見・田山
 - (3) 人権教育推進事業について 田山
 - (4) 管理運営係事業について 濱田
 - (5) ICT 活用推進担当事業について 岸上
 - (6) ICT 環境整備担当事業について 三ツ堀
 - (7) 質問・意見等

(時間：51分)

【山崎議長】：

質問が終わりましたら、その後に意見をお伺いするお時間を作りますので、質問がある方は挙手をお願いいたします。

【米持校長】：

よろしく申し上げます。まず、研修、調査・研究事業において、生成AIを活用した振り返りの分析を行われたと伺いました。非常に興味がある部分ですけれども、この分析を行うにあたって、教員研修がありましたときに皆さんが感想を入力していると思います。その入力したデータをそのままAIに中身を読ませることによって分析が出てくるような感じなのでしょうか。そのあたりの仕組みを少し教えていただければと思っております。それが一点です。

それから人権研修について伺いましたが、そのなかで今までで一番心が動かされた研修であったという感想があったとおっしゃいました。一体どのような内容に対して、その人が心動かされたのかと非常に気になるところで、もし内容を教えていただければと思います。それから田戸小学校でも、先生方の人権感覚が非常に磨かれているというふうに田山さんが感じられたという点がありましたが、この辺も一体どのようなところからその様子が感じられたのか教えていただければと思います。社会の中で教員の色々な不祥事等を耳にする中で、やはり教員の人権感覚をきちっと磨いていく、持っていくということは非常に各学校でも課題だと思います。バッドニュースばかりではなく、よい話も我々のほうでしながら、「こういうよい日本に向かって頑張りましょう」という話をしたいと思っておりますので、ぜひよろしく申し上げます。

それから、管理運営事業部門で築70年以上を目指して管理を行っているというお話を伺いました。そこでちょっと気になるのですが、この教育研究所はそもそも建って何年経っているのでしょうか。この研究所もゆくゆくは建て替えを迎えるのではないかなと思います。そのような見通しが遠いのか近いのかといったところを教えていただきたいと思えます。

最後に、ICT活用推進担当事業のアプリケーション、学習に活用するアプリケーションの活用研修を行っているということをお伺いしました。その中で、オンラインで研修を行ったこともあるというご報告がありましたが、これはどういった校種で、何人ぐらいの教員に対して、どのような内容で行っているのかをお伺いしたいと思います。また、オンラインではなくて、指導主事等による学校訪問研修も依頼できるのかなと思っております。特に本校は全日制定時割合せますと100人ぐらいの教員がいるので、そういう教員に対して研修を依頼するときに、この規模によってオンライン、全体研修という、基準があるのかもお伺いしたいと思います。以上です。

【山崎議長】：

大きく4点だったかと思います。順次担当から申し上げます。

【田山主査指導主事】：

ご質問、ありがとうございました。人権のところにつきまして、私からお答えさせていただきます。まず、第2回人権教育担当者研修会の講師の方は、川崎市ふれあい館で、ご本人が在日朝鮮人三世の方になります。もうニュース等で知っている方もいるかと思いますが、川崎市でヘイトスピーチがあり、まさに川崎市ふれあい館がある桜本という地域へ集団でおしかけてきました。その時に在日朝鮮人の方も立ち上がったのですが、一緒に周りの日本人たちも立ち上がって、そこへ来ないようにという活動を行いました。それでも、やっぱり来てしまった。そのときで一番印象的だったのは、その周りの中学校とか、小学校の子どもたちが声を上げてくれたということです。「なんで僕らの友達をいじめるんだ」と。そういう実際の声やその時の映像を見させていただきながら、本当に子どもたちの人権感覚が育っているというところを実際に見ながら、子どもたちにどう教えていったらいいのか、非常に私自身も心打たれるような、考えさせるような内容でした。本当に評価も高く、途中涙されている先生方もいらっしゃいました。

次に田戸小についてですが、私は前年の段階から何回か研究授業に入らせていただいているところですが、特に教員の子どもたちを見る目と、声のかけ方などに、とても意識が高くなったと思っています。例えばとても細かいことですが、子どもを呼び捨てで呼ぶことに対し、先生のほうから、「それってどうかな」「子どもにとって呼び捨てって嬉しいのかな」と疑問をもち、「呼び捨てで呼ばれるのは嬉しい？」と実際に子どもに聞いてみる。そういったところを先生自身が「ちょっとこれってどうなのかな」と感じて、実際の教育実践で行う。それを振り返りで、先生同士でしっかりと話ができる。自分の失敗談でも、例えば、子どもを揶揄するような言葉を先生が言ったときに、それを聞いていた他の子もその子を揶揄するような言葉を言っていた。それを聞いて、その先生は「もうすごい失敗した」ととても反省していました。自分の言葉を先生同士で反省ができる、先生たちの心や感覚が育っているというところに、人権感覚がしっかりと磨かれているなど、私は感じています。

この後、研修については伊東主査から、そして管理運営についての築年数につきましては、濱田係長から、アプリ研修につきましては、岸上指導主事からご回答をさせていただきます。よろしく申し上げます。

【伊東主査指導主事】：

よろしく申し上げます。私からは、生成AIを活用した基本研修の振り返りの分析ということで、簡単にご報告させていただきます。今までは、研修の中で振り返りをさせていただいたものに関しては、紙ベースの形にして、研究所内の指導主事で回覧していました。主にご本人に内容に関してはご本人に聞いてみたり、気になる内容については管理職の先生方にご報告をさせていただいたりしながら、研修の内容をフィードバックする形を取らせていただいていたと思います。今回、生成AIスタディポケットを中心に、主に自由記述の分析を行っております。どのような形をしているかというところ、自由記述の中から先生方が印象に残った内容がどのようなものであったかとか、中心的に扱っていたものは何かというところを、

我々の研修で伝えたい内容と照らし合わせながら、研修内容の構築などに活用しています。また、悩みであるとか、授業づくりの中でどのようなことに困難を感じているのかということも、一気に大量のデータを読み込むことができますので、全体的な傾向などを読み取るには非常に役に立っていると感じております。今はOJTということで、初任者の先生方の研究授業に中堅の先生方が関わる研修を実施していますが、例えば初任者の先生方の悩みを中堅の先生方に共有するなど、異なる研修同士で共有できたらと思います。また、学校を訪問した際に、先生方が学んだこと、感じていることなどを校長先生方が知りたいというご要望もありましたので、どのような形で学校に提供できるかも考えながら、今後も生成AIとを効果的に活用したいと考えております。以上です。

【濱田係長】：

管理運営係からご質問いただいた内容についてお答えします。教育研究所は、昭和59年に竣工されています。ですので、現在のところ41年を経過しました。FM推進課で、公共施設の保全計画や管理計画を行っていますが、全体的に70年で建て替えということで、今のところ考えられています。教育研究所・南図書館は1つの建物で複合施設ということになっています。あと南体育会館についても、実は廊下でつながっていて、教育研究所、南図書館、南体育会館については、消防法上は1つの防火対象物ということになります。それぞれ防火管理者がいますが、統括の防火管理者ということで、教育研究所長が3館の統括防火管理者になっております。南体育会館も、教育研究所の一年前、昭和58年に竣工しているので、建て替え時期も70年ということで一緒になると思います。まだ、具体的な建て替え計画の話はないので、今後70年で建て替えということが考えられる場合には、またこの敷地に建てるかどうかはわかりませんが、今後人口も減少していく中で、1つの建物で3つなり4つなりの複合施設形で、施設計画を考えていくような形になるのではと想像しております。以上です。

【岸上指導主事】：

続きまして、Googleアプリの活用研修の件についてです。本年度はオンラインと対面でのハイブリッドの研修として、小・中・高・特別支援学校の校種で40人程度の研修を行いました。そのうち、研究所に来られたのが15人ぐらいでした。ハイブリッドで実施することで、苦手な方は実際に来て操作を指導主事と一緒に見ながら、研修を進めてまいりました。内容はGoogleアプリのスライドや、クラスルームの使い方。あと、Googleフォームの使い方について、一から手順を追って使い方の研修を行い、あとは具体的な活用について研修をさせていただきました。オンラインについてはGoogleミートを使っていますので、100人規模はいけるとは思いますが、一応50名を定員とはしています。ただ大きな画面で1つの端末を繋いで、学校内で複数人が研修を受講されている学校もあったので、そういった対応も可能であると思っています。以上です。

【山崎議長】：

よろしいでしょうか。そのほか質問がありましたらお伺いします。ないようですので、ご

意見を伺いたいと思います。ご意見のある方は挙手をお願いします。

【三宅校長】：

お願いします。いつもありがとうございます。冒頭杉戸所長をはじめとして、とにかく現場を大切にしてくださっているというのを、本当に日々感じております。本当に感謝しきれないぐらいだと思っています。何点か意見というか、できるかできないかは別ですが、お伝えします。理科教育の最後に薬品管理というのがあるのですが、中学校でも薬品管理で教員の異動があったり、昔からいる先生がすごい物を残していたりとかいうのがありまして、私は2年前に監査が入ったのですが、若い先生ばかりになってしまっていて、どうしようもなくなり、その時に研究所の指導主事に来ていただいて、お手伝いいただいたということがありました。薬品管理は毎年やっているものですが、どうしても中学校で担任業務など、他に色々とやることがあるので、薬品管理については外注ができないのかなと思います。全部確認しないとイケないのは分かっていますが、誰かが来て見ていただき、片付けや廃棄も含め、やっていただけるとだいぶ先生たちは助かると感じたので、一応言わせてもらいます。

続いて、人権のことは先ほどのお話で川崎市の話もありましたし、田戸小学校の人権感覚というところで田山さんからお話がありました。今本当に、横須賀だけではなく、全国でわいせつ事案であったり、体罰事案が起こっているというようなことも含めると、教職員課や指導課が出しているコンプライアンスマニュアルも含めて、タイアップしていかないといけないと感じています。本校のやり方が悪いか分かりませんが、どうしても校務分掌上、校内の仕事で人権教育担当を割り当てると、年配の方が中心となっていたりします。しかし人権教育担当はそういうものではなくて、さっきお話がありましたが、先生の声かけのことであったり、我々サービスの規制であったりというところと、一緒になって考えていかななくてはイケないのかなという感じがとてもしました。人権教育担当だけではなく、もっと我々のサービスも含めたところに一括できると、今後もそれは大事になっていくかなと感じたので、意見として言わせていただきました。

あと、ICT活用推進事業で岸上先生からお話がありましたが、とてもありがたいと思うのは、オンデマンドで先生方が知りたい情報を知りたいときに確認できることをやってもらえると、先生たちは研修の時間に拘束されずに、「これを見たい」、「これを今知りたい」というのが、自分の時間帯に合わせて見られるというところです。岸上先生から、もっとより分かりやすく、負担にならない学校のニーズに合わせてというお言葉を聞いて、とてもありがたいと感じたので、ぜひそのような取り組みをどんどん進めていただけるとありがたいと思います。

最後です。整備担当事業で電子黒板の導入という話がありましたが、35人学級も含めではありますが、電子黒板を先生方がよく使うようになると、教室だけではなく、例えば音楽や美術などで本物を見せるという意味では、特別教室に電子黒板があるとありがたいというのをとても感じているところです。同時に、これは別の話になりますが、先日、小中一貫で鈴木指導主事にも来ていただいたのですが、鶴久保小学校の授業を見させてもらいました。小

学校の先生方がモニターと Chromebook をつないで授業を行っていて、「これ気の毒だな、中学校は今一発でできるのに」と感じました。先生方はあれば使えるという状況が本当にできているので、教室だけでなく特別教室も含めて入れていただけると、また先生方の ICT の活用も増えていくのではないかなというのを、感じたところです。色々と意見というか要望ばかりになってしまいますが、ぜひよろしく願います。本当に常に現場を第一に考えていただいて感謝しております。ありがとうございます。

【山崎議長】：

ただいまのご意見に何か見解があればお願いします。

【浅見指導主事】：

理科の薬品についてありがとうございます。イントラの「理科なび」にも載せていますが、希望すれば指導主事が訪問をして、大体5年に一度薬品廃棄をしています。次回廃棄する薬品と、今使いたい薬品の仕分けの手伝いはできますので、ぜひ活用していただければと思います。以上です。

【山崎議長】：

ありがとうございました。そのほか、もしご意見がありましたら、よろしいでしょうか。最後にお一人ずつお話をいただきますが、今ご意見としてこの場では大丈夫ですか。

【新田校長】：

研究も調査も、ICTの機器の整備も、本当にありがとうございます。本当に学校では、ICTに関しては先ほどの電子黒板の話がありましたが、先生方本当によく使っていて、様々な場面に複合的につながり始めていて、とても活用されていると思います。研修については、OJTとしてペアを組んで、メンター・メンティを組み合わせながらやっている研修というのはとてもよいようです。意図的にやることによって、実際聞けないことが聞けたり、学び合ったりというところで、レポートを見るととても学び合っていることがわかり感謝しております。

要望ですけれども、事前の意見にも書いたのですが、研修の時間をもっと長くしてほしいと思います。これは賛否あると思いますが、スキーでも教わったあと、何本リフトに乗るかということが大事だと思います。研修の中で一旦定着させようとする、民間でやっているように午前中座学、午後、それをもう一回身につけるためのワークをやっていく。そういうスキルアップを本当にかけるとしたら、授業についても、主体的・対話的に学ぶ授業、進める授業というのであれば、座学と実際に授業をやってみるという、模擬授業というようなものやっついていかないと、アウトプットばかりがではなくて、教師の定着、新しいスキルを身につけるという、マインドが変わってくる。そういう研修をきくと嫌がるかと思うのですが、でも意味あるから、そこでできればまたやりたいと思うのだと思います。そして、指導主事の皆さんも、それを回していくというスキルもまた身につけていかざるを得ないというのは本当に大変だと思いますが、そういう研修がないと学校に帰ると忘れてしまう。そういう研修があるとよいと思っています。特に今、教育の課題がたくさんありますが、それを学校に、職場に持っていったときに、そういうことを教員がみんな力で力を合わせて協働的

にやっていく技術そのものがまだ身につけていない。要するに、教員が主体的、対話的に新しい技術を身につけたり、話し合いをしたりするスキル自体もやはり変わってきているので、そこも身につけていく必要があるのかなと思うと、少し尺の長い研修を立ち上げる、そして予算も一桁違うぐらいの予算がかかるようになってほしい。そういうのがあるといいだろうなと思った次第です。以上です。

【山崎議長】:

はい、ありがとうございます。何かよろしいですか。はい、どうぞ。

【浦嶋校長】:

2点お願いします。本当にいつも色々と、ありがとうございます。先ほど質問しようかどうかって思ったところがあるのですが、ただ、年次研修について本当にきめ細かくやっていただいて、学校としては本当にありがたく思っています。なかなか、いろんなことに立ち返って考える場が、学校にはなかなかないのですが、年次研修を通して、その場を提供していただいていることは、本当に学校として、人材育成という面でもありがたいなと思っています。要覧の6ページなのですが、授業づくりワークショップ研修というのが、私の記憶だと年次研修の後に希望者だけが行っている研修だったかと思います。どれぐらい希望しているかを教えていただきたいです。とてもよい研修だと思うので、私はどんどん受けたほうがよいと思うのですが、結局この年次研修が終わった後の時間なので、帰ってしまうのかなとも思いますが、今の年次研修の人たちがどのぐらい割合で参加しているのか、教えていただくとありがたいです。もしあまり参加率が低いのであれば、校長として参加を促していきたいなと思うことが1つです。

もう1つは、GIGAの関係ですけれども、こちらの校長会のほうのGIGA委員会というところは、今年はとても機能してまして、本年、端末の持ち帰りの4月の件に関しては、非常に小学校現場としては大変でした。急に入ってきたことでやらなければいけないというところで、校長会のGIGA委員会で非常に対応していたので、なんとか受けることができました。例えば、具体的に持ち帰りの同意書についても、校長会のほうで先に情報が来て、私たちはそれを基にどんどん進めていって、本当に申し訳ないのですが、ある程度小学校のほうで進んでいる後で、研究所からお知らせがあり、「いや、遅い」というのが実感でした。その辺りの連携とか、もしかしたら学校の情報教育担当とは、情報共有があったのかもしれませんが、情報教育担当者会と現場とがちょっとうまく機能していないところもあり、情報教育の担当は分かっているけれど、管理職のほうにあまり伝わってこないという状況もありました。ですので、GIGAをどんどん進めていく中では、この研究所さんと現場等がもう少しうまく連携できたらよかったかなと思います。今回、川崎市のほうへGIGAの指導主事の先生とも一緒に行かせていただいた中で、GIGAスクールの構想について、川崎市ではかなりしっかりしたものがあって、子どもにどういう力をつけるために何をするかという、その理念のところ、これは研究所のお仕事ではないのかもしれませんが、指導課とも連携しながら、そういうものができていたらいいのかなと思います。さらに、今、生成AIのこと

で、所見についての活用についても、もう既にこの間、校長会にはGIGA委員会のほうから提案があって、部会の委員会のほうから情報提供があったので、早速本校でもやっけていこうと思っけているところだす。自分なんかはあまりGIGAには詳しくないのだすし、全ての校長が詳しいわけではないので、研究所からもこういっけて情報提供がもっとあるとよかっけてだす。教頭とも一緒にやっけていた学校はあると思っけていますが、あまり見えてない。私の肌感では校長会側の主導だっけて印象があります。今後どうぞよろしくお願っけていたします。

【山崎議長】：

今の件に回答を、見解ありましたら回答お願っけてします。

【伊東主査指導主事】：

授業づくりワークショップ研修の件につきまして、ご質問いただきありがとうございます。本年度は教職1年経験者、2年経験者、5年経験者の研修が終わっけて後に時間を設定しました。参加者は一番少ない時で1人、一番多い時で8名から10名近く残っけていただいたというところになります。我々としてもやはり授業づくりに関すること、先生方が一番求めているところというこゝで、授業づくりワークショップを設定している中で、できるだけ多くの方に参加してほしいなと捉えております。受講者の方にもアンケートを取っけてたりしながら、どのような形が一番よいかという中で、終わっけて時間にあるというところは気にされている方が多いという印象があります。我々としても、終わっけて時間の後なので、残っけてくださいということがなかなか強々いづらひところはあります。また、学校でもその辺りを加味していただき、個別に声かけしていただいている学校もあります。その辺りも情報を交換させていただきながら、特に授業づくりというところは先生方にとって一番大きなウェイトを占める部分だすので、ニーズに合っけて形で、できるだけ多くの方が参加できるように次年度も頑張っけていきたいと思っけています。

【田山主査指導主事】：

先ほどの新田校長先生のお話とつながる部分かと思っけていますが、この授業づくりワークショップ研修については、研修の時間がどうしても決められている中で、その後授業について話したいとか、そういっけてアウトプット、ファシリテーション、ワークショップ、そういう時間を確保するために、時間外というところで研修させていただきます。先ほど伊東からも話がありましたとおり、時間外の設定だすので、なかなか校長先生方も無理には押し出せないところはあるかと思っけています。しかし、時間外であっけても、休日であっけても、多分行きたい講演会などには、それぞれ先生方行っけていていると思っけています。伊東の話にもあっけてとおり、時間外であっけてもそれに参加したいと思えるような魅力的な研修になるように、今後も検討してまいります。ご意見ありがとうございます。

【岸上指導主事】：

ご意見ありがとうございます。本当にもっともっと発信していくべきだっけてかと思っけていますし、小学校の特別委員会に教育情報担当としても参加させていただきます。こちらの思いもお伝えして、それをさらに受け止めていただいているというところもありましたので、引

き続きもっと連携をさせていただきます。

【山崎議長】：

では続きまして、議題の「2 今後に向けて」に移ります。今後の教育研究所の諸事業についての意見、要望などについて、本年度の懇談会はこれが最後になりますので、委員の皆様全員より何かありましたらお話をいただければと思っています。お一人2分以内で簡潔に済ませてください。よろしく願いいたします。では、三宅委員からお願いします。

【三宅校長】：

ありがとうございます。先ほども申し上げたとおり、現場を大事にいただき、ありがとうございます。1回ICTが繋がらなくて使えなかったときも、すぐ対応していただいて本当にありがたく思っています。先ほども言ったとおり、ぜひ今後も職員の成長も含めて、働き方改革もあるので色々な意味で大変だと思いますが、先生方もお体を大事に頑張ってください。

【米持校長】：

今、時間外の研修について話題になっていましたけど、こういう働き方改革みたいなことが言われてないところは、教員も色々な時間外の研修に、興味を持ったら出かけていたと思います。でも今の時代、やはり時間と時間外の区別をしながらワークライフバランスを考えて生活しているのが今の教員だと思います。ただ、そっちばかり言っていると、せっかくよいものがあったも気づかないで通り過ぎてしまうと思うので、私はやはり、「研修時間外だけど、行ってみたらどう」というのは必ず言うようにしています。校長だから「時間外に絶対に行け」とはとは言えないけど、でも「行ってみたらどう」「やってみたらどう」という声かけを学校の中でしていくことは、大切だと思っています。

もう1つ話は変わりますが、理科室の活用について少し意見を申し上げます。理科室の活用を研究所の中でもやっていただいています。よい活用をしている学校があったら、その学校の理科室で夏の研修会を打ってみたらどうかと思います。そうすると、集まってきた理科に関する先生方が、他校の理科室を見て、そこで学ぶと思ひ、刺激を受けると思います。研究所の理科室に連れてきて見せても、研究所の理科室だからというところを感じる方もいると思います。でも、実際の学校で「こんな運用されている」とか、「こんないい点があるんだ」という、気づきがきっと刺激になると思います。そういう現場での研修というもの、理科室の研修については考えていただけたらと思っております。以上です。

【浦嶋校長】：

先ほど話をさせていただいたので改めてはありませんが、先ほどワークショップ研修の参加者が1人というのは少し衝撃でした。時間の問題はなかなか難しいと思いますけど、本当にご協力いただいて助けていただいていると思いますので、今後どうぞよろしくお願いいたします。

【新田校長】：

今日、うちの2年目の社会科の教員が、横浜国大付属に行っていますが、やはり若いうち

に学び癖をつけると、学ぶのが楽しいという思いで、アウトプットも変わってくるだろうと思います。そういう実際大切なことを研究所でやっていただいている。それをまた支えるICT整備もされているので、また次年度素晴らしい運営をしていただいで、我々を支えていただければと思います。

【鈴木課長】：

先ほどの本年度の事業をご報告いただく中で、資料の中でもそうですし、説明の言葉の中にも、「教育指導課と連携して」ということは随所に出てきていたかなというふうに思います。この会に参加するたびに、連携して取り組むことの大切さを再認識させられるわけですが、ただ、言葉で連携して取り組むというのはとても簡単ですが、本当にそれは効果的にできているのか、お互いの専門性を大事にしつつも同じ方向を向いて取り組んでいるか、ということは今後も見ていきたいと思っています。

【山崎議長】：

ありがとうございました。では最後に、私からも要望を含めてお話しさせていただきます。本当に日頃から両課長をはじめ、指導主事の皆様方においては、各学校で非常に手厚く、また寄り添った対応をしていただきましてありがとうございます。感謝申し上げます。いくつかお話しさせていただく中で、学習指導案の更新について先ほど田山主査からありましたが、先日早速拝見しました。非常にコンパクトになって、これからさらにブラッシュアップを図っていただければと思っています。

それから、この前校長室の中で書庫を見ていたら、山積みになった指導要録が紙でありました。これはデータ管理にできないかなと思いました。今、健康診断表はデータ管理になっていると思います。指導課にも関係してくると思いますが、確か学籍簿が20年、指導に関する記録が5年だと思いますが、そういうのも全てひっくるめて、同じようにデータ管理ができればありがたいというふうに思います。学校情報化推進部会もあるので、もし取り上げることができたらよいと思います。

それから研修の話です。基本研修で、どの研修も授業力向上のための時間は非常に充実して費やしていただいていると思っていますが、授業力向上と合わせて、指導力の向上も図ってほしいと思います。既にやってらっしゃるかもしれませんが、例えば子どもたちと先生のクラスの信頼関係とか、また雰囲気づくりとか、あとは学年単位での取り組みを進めていく動かし方とか、そういった先生の指導力的なものも二本柱で進めていただくと嬉しいと思っています。あと、次年度から横須賀研究日がスタートするわけですが、ぜひ年次研修の場で来た先生方に、任意ではあるけれども、研究会に所属するメリットを皆さんにアナウンスしてほしいなと思っています。授業技術であるとか、また学力向上につながる実践とか、他校の情報共有とか、そういうものがメリットとして考えられると思うので、ぜひ積極的に、経験の浅い先生方に、お話を進めていただければありがたいと思っています。私のほうからは以上です。では以上をもちまして、議事を終了いたします。皆様のご協力ありがとうございました。